



## Yamaka Topics ヤマカトピックス

### サンマ漁 今年も厳しく。温暖化影響か。



サンマ漁の水揚げは2021年度10月末現在で統計開始以来、史上最低の20年を下回る、水揚数量9440トン（前年同期比27%減）だったそうです。史上最低を3年連続して更新する可能性があるそうです。水産庁はサンマやスルメイカ、サケの記録的な不漁の主な原因は地球温暖化とする報告書をまとめました。温暖化で海水温や海流が変わり、稚魚が育ちにくくなったり、産卵場がエサに乏しい沖合に移ったりしていると説明。3魚種は漁獲量が激減し、2019年はいずれも過去最低水準でしたが、この不漁が長期的に続く可能性もあると指摘しています。

### ロシア産ズワイ 各国で人気



最近、ロシア産の生鮮ズワイガニの需要が各国で高まっています。特に韓国、中国では「活＝新鮮」という印象をもっており、「活」の需要が高くなっています。供給側のロシアにとって、加工の必要がなく、歩留まりも計算せずに商品を高く評価してくれる相手は好都合。加工が必要で品質にもうるさい日本よりは、他国へ商品を振り向けやすい状態です。ズワイガニの美味しさを伝えたのは日本だとか。なかなか日本にとっては厳しい競争相手になっています。



### いよいよ年末！入荷状況

#### 12月のさかな

ズワイガニ

コウバコガニ

ブリ ◎

タラ ◎

甘エビ ◎

ナマコ ◎

フグ(ムキフグ)

カキ

ヤリイカ

アンコウ



今年も早めに地物タラが入荷。白子は少し早い感があります。地物ブリは今期、厳しい入荷となりそうです。半減との予想も。山形沖の水温が高く、能登沖の水温が低くなると富山湾にブリが南下してきます。その温度差が大きいほど回遊するブリも増えるそうですが、今年は温度差が少ないようです。現在の入荷はガンドが中心です。地物ズワイガニは出足こそ例年並みの漁獲でしたが悪天候、資源量の減少もあって入荷が少ない状況です。通年は山陰産やロシア産の入荷もあり全体的に数量が確保されていましたが、外国の引き合いも強く、全国的に厳しい状況です。コウバコは今年いっぱい入荷です。

例年、12月に入るとカニ漁場に集中していた漁も落ち着き、甘エビなどが平常通り入荷してきますが、今年は少し遅れそうです。ナマコは入荷が少なく高値推移です。能登産は身質が柔らかく酢の物に最適であるため関東方面の引き合いが強く、地元の流通量が少ないようです。